

# 令和4年度事業計画

(2022年4月1日－2023年3月31日)

## I. 定期学術集会・総会の開催

第69回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催する。

会 期 : 令和4年5月18日(水)～20日(金)

会 場 : 仙台国際センター

会 長 : 三好 一郎(東北大学)

参加者 : 約1,000名を予定

## II. 通常総会、理事会、理事評議員懇談会の開催

通常総会(1回)、理事会(3回)、理事評議員懇談会(1回)を開催する。

## III. 定期刊行物の発行

機関誌「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」は下記のとおり発行(電子配信)する。

発行年月日	巻	号
2022年4月1日	71	2
2022年7月1日	71	3
2022年8月1日	71	Supple (Proceedings of the 69 JALAS Conference)
2022年10月1日	71	4
2023年1月1日	72	1

## IV. 研究の奨励、業績の表彰をする。

(1) 名誉会員記を授与する。

浦野 徹 会員

芹川 忠夫 会員

八神 健一 会員

(2) 令和4年度学会賞受賞者を表彰する。

1) 功労賞(3名)

大和田 一雄 会員

局 博一 会員

松本 清司 元会員

2) 安東・田嶋賞(1名)

庫本 高志 会員(東京農業大学)

「疾患モデルラットの原因遺伝子同定研究と新たな遺伝子機能の発見」

3) 奨励賞 (2名)

Mark Joseph Maranan Desamero 会員 (フィリピン大学)

「疾患モデルマウスを用いた有用農産物の *in vivo* 機能評価」

村山 正承 会員

「疾患モデルマウスを用いた神経変性・免疫疾患の発症機構の解明および治療薬・治療法開発」

4) 2021 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1 編)

今井 啓之、津田 宗一郎、岩森 督子、加納 聖、日下部 健、小野 悦郎

Establishment of a novel method for the production of chimeric mouse embryos using water-in-oil dropletst

「オールドドロップレットを用いたマウスキメラ胚の作出法の確立」

(3) 2021 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行う。

2021 年受賞者 (4 名)

インドネシア : Dr. Hery Kristiana

フィリピン : Dr. Maria Llaine J. Callanta

スリランカ : Ms. Risfa Samanudeen

タイ : Mr. Theerachat Kampaengsri

(4) 第 69 回日本実験動物学会総会・優秀発表賞の選考及び表彰を行う。

(5) 令和 5 年度日本実験動物学会功労賞、安東・田嶋賞ならびに奨励賞の推薦受付、選考を行う。

(6) 2022 年 Experimental Animals 最優秀論文賞の選考を行う。

(7) 2022 年日本実験動物学会国際賞の選考を行う。

(8) 第 72 回日本実験動物学会総会大会長を選出する。

V. 委員会等の活動

下記の委員会を設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施する。

- a. 編集委員会
- b. 学術集会委員会
- c. 財務特別委員会
- d. 国際交流委員会
- e. 広報・情報公開検討委員会
- f. 動物福祉・倫理委員会
- g. 定款・細則・規定等検討委員会
- h. 実験動物感染症対策委員会
- i. 教育研修委員会

- j. 実験動物管理者研修制度委員会
- k. 外部検証委員会
- l. 人材育成委員会
- m. 将来検討委員会
- n. 動愛法等対策委員会

#### VI. 動物実験に関する外部検証

「動物実験に関する外部検証事業」を外部検証プログラムに沿って実施する。

#### VII. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」課題を推進する。

#### VIII. 関連学協会等との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力する。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力する。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続する。
- (4) 韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進する。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターや日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）の活動に協力する。

#### IX. その他

- (1) 第 69 回日本実験動物学会総会期間中に委員会主催のシンポジウムおよびセミナー等を開催する（学術集会委員会、実験動物感染症対策委員会、国際交流委員会、教育研修委員会）。また、関連学協会との円卓会議を実施する。
- (2) 令和 4 年度維持会員懇談会を開催する（財務特別委員会）。
- (3) 第 10 回実験動物科学シンポジウムを開催する（学術集会委員会）。
- (4) 実験動物管理者等研修会を開催する（実験動物管理者研修制度委員会）。
- (5) 外部検証専門員講習会を開催する（人材育成委員会）。
- (6) 動物実験の外部検証令和 5 年度の実施準備に向けた説明会を開催する（人材育成委員会）。